

もみじ

-広島県山岳・スポーツクライミング連盟会報-



一般社団法人 広島県山岳・スポーツクライミング連盟

〒733-0011 広島市西区横川町2丁目4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail : hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL : <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

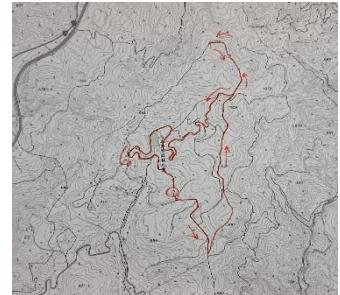
題字デザイン 今村みすほ

編集 西部伸也

本号内容

1. 高体連大会（2/8～9 もみのき森林公園）報告
2. 登山教室（2年 2/8～9 大山、1年 2/22～23 掛頭山～臥龍山）報告
3. 安佐北消防署山岳救助訓練（2/19～20 堂床山）報告
4. 積雪期レスキュー研修会（2/29～3/1 県民の森）報告
5. 連載『幸せの国ブータン王国滞在記 もろもろ』③
6. 2020 年度行事予定
7. 岳連短信（寄贈御礼、3～4 月の行事案内）

民局学事課・県教委の5者による「広島県冬山登山計検討委員会」も持たれ（当連盟からは後藤副会長が出席）、周到な準備がなされていましたが、大会は無事に終了しました。



上：大会1日目と2日目登山コース、下：2日目登山行動



1. 高体連大会報告

（西部）

2/8～9、もみのき森林公園で広島県高体連登山部の新人大会（雪山講習会）が開催されました。生徒参加校は5校（高陽・広島学院・賀茂・廿日市・五日市）で、参加者は男子生徒35名・女子生徒3名・顧問8名・顧問OB2名の計48名でした。

1日目は標高900m前後のもみのき森林公園にも雪がほとんどなく、開会式後のテント設営の後は、体育館内で各校の交流を深めるゲームや美藤委員長発案のミニ・ロゲイニングが開催されました。

2日目は全参加校で高崎王冠山(991m)・小室井山(1072m)周回登山。夜中の間に数cmの雪が積もり、少ない雪ながら雪山が楽しめました。

3年前の栃木県高体連雪崩事故を受け、大会の開催に当たっては、11月末に顧問の先生を対象としたスポーツ庁・県教委主催の安全登山講習会、1月半ばに当連盟・県高体連事務局・県高体連登山専門部・環境県

2. 登山教室報告

(指導部長 森本 覚)

第11回 2年生 2/8(土)~9(日)

登山形態：雪山訓練

山域：大山

人数：11名（スタッフ含）

今回の2年生は教室の集大成で大山に行ってきました。雪不足が心配な状態でしたが直前に積雪がありラッセルを体験することができました。多くのメンバーがラッセル初体験でしたので、今回の行程でも充実したものになったと思います。（森本）

『2月の山行を終えて』

(登山教室 2年 細田 悅朗)

この冬は暖冬のため雪不足が続いているところ、訓練の3日前から待望の雪となり、2年間の登山教室も終わりに近づいて、始めてラッセル訓練ができる状態になりました。

今回の登山場所は大山6合尾根及び7合尾根で、12月の訓練時に指導員の方から説明を受け急斜面を見たときは、ラッセルしながらあそこまで着けるか不安も大きかった場所です。7合尾根登頂のため武田山に入り、ロープとカラビナの使い方を復習し備えていました。

訓練日の初日に始めてラッセルをしたところ、雪質が柔らかく足で踏ん張ろうとしては沈み込み、谷では雪に埋もれてしまい、全くコツを掴めず疲れるだけでした。

尾根と谷筋では雪の深みが違いすぎ、トラバースしながら進んで行くときの順番待ちでは、谷の場所を避けたい気持ちが出ていました。

素人の私と違い、2年生の内2名の方はラッセルの技術を持っておられ、指導員の方と同様に斜面を進んで行かれる姿は何とも頼もしく見え、さすがと皆さんで感心していました。

私はアドバイスをもらった2日目になってだんだんコツが分ってきたようで、少しでも前に進みだしたときは、疲れている人に対して顔向けもできると思いました。

ラッセルとしては少し人数が多かったようですが、

登山グループの大事なチームプレーとして、とてもいい経験をさせていただきました。

訓練は2日間ともに荒天にはならず、特に2日目に一時的に晴れ間も出て、遠くの甲ヶ山や三鈴峰の稜線まで見渡せたときは、ラッセルの疲れも癒える最高の景色となり、登山の楽しさを改めて思うこととなりました。

6合尾根を2日目に登頂できたので、7合尾根も行ってみたい欲が出ましたが、技術を上げる必要もあり次の楽しみに取って置くこととします。



(写真提供 森本)

第11回 1年生 2/22(土)~23(日)

登山形態：テント泊山行

山域：掛頭山～臥龍山

人数：9名（スタッフ含）

今回の1年生は掛頭山～臥龍山に行きました。22日は雨の中での行動となりました。雪は少なかったのですがなんとか雪上生活を体験してもらいました（森本）

『感想文』

(登山教室1年 高田 正剛)

登山教室1年の雪山講習も今回で3回目になりました。前回の1月は少ないながらも何とか雪を踏むことができましたので、次は大丈夫なはずと自分に言い聞かせていたのですが、2月に入っても記録的な暖冬は続きました。

毎日、気象庁のサイトと恐羅漢スノーパークの積雪情報をネットで確認し、ダメかな？と思っていたところ、この冬一番の寒気団が南下し、県北に雪が降りました。

とても喜んでいたのですが、当日は天気予報どおりの雨。しかもとても暖かい雨だったので、これで雪が溶けてしまうと不安に思いながらの山行が始まりました。

土草峠登山口までの道では、雨だけでなく雪解けの水が流れていることが分かるくらいたくさん水が流れていましたが、登山口から山に入るとまだ雪がたくさん？残っていました。

掛頭の肩で休憩し、練習のためワカンを着けて歩きました。雪で登山道がわからなくなることはありませんでしたが、いつもとは勝手が違い、反対側から登ってきた人達の踏み跡を見つけるまでは、おつかなびっくりの山行になりました。

幕営地についてからはテントだけでなく、風よけの雪のブロック壁の設置などこれまでのテント泊とは違う設営作業を経験しました。雪から水をつくるときは鍋底に水滴がつくので雑巾でこまめに拭く必要があることは本などで読んでいたのですが、実際にやってみると想像以上の水滴で、私たちのテントではバーナーの火が消えてしまい、とてもビックリしました。

また、水や食事作りだけでなく、装備のパッキングなどは狭いのでテントの外に出てやっていたのですが（雨でも炊事棟など屋根のある場所がありました）、今回の山行では限られたスペースの中で順序良くできるようにする必要があると強く感じました。

2日目は雪の斜面におけるストックを使った登りや転倒した場合の対応方法について講習がありました。雪が少なかったため、実戦とは状況がかなり違っていると思いますが、一応雪山？という感じがして、

私にとっては、とても楽しい内容でした。

登山教室1年目も次回の山行で終わりになります。現在の1年生の中では私が山行のリタイア回数が一番多いと思いますので、来年度は2年生だけでなく1年生の山行にもできるだけ参加し、中途半端に終わってしまっている課題に取り組みたいと思っています。

スタッフ及び同級生の皆様、引き続きよろしくお願ひいたします。



(写真提供 森本)

3. 安佐北消防署山岳救助訓練報告

(指導部長 森本 覚)

この度、広島市安佐北消防署警防課救助係の古堂様より、昨今の登山者及び山岳での救助事案の増加に対応するべく、山岳救助技術の向上を目的とした山岳救助訓練を実施したいという事で、当連盟からアドバイザーとして訓練に参加依頼が届きました。安全確保の為に参加人数を制限したいということから遭難対策

委員でメンバーを構成して参加してきました。

日時：2月19日（水）、20日（木） 9:00～13:00

実施場所：安佐北区 堂床山

参加者：（19日）アドバイザー：岡谷 見学者：森本、新山（20日）アドバイザー：堀内 見学者：後藤（裕）

実施内容：山岳救助（搬送）訓練

1) 活動隊員搬送訓練

山岳救助現場において、活動隊員を消防ヘリコプターにより活動現場付近へ搬送することが、今後の現場活動に有効であるか検証を行います。

2) 救出（搬送）訓練

山岳救助活動現場において、消防ヘリコプターでの要救助者の救出困難な現場を想定し、上記実施場所頂上付近から登山口への要救助者の搬送について検証を実施します。

という内容の訓練に当連盟参加者は活動人員ではなく、見学及び助言をするという立場で参加しました。

19日はヘリコプターを使用せず、消防隊員8名の方と共に南原峠駐車場から堂床山山頂に向けて歩いて移動しました。この日は週初めに降った雪の為標高450m付近から薄っすらと積雪がありましたので、斜面やトラバースでの足運びをアドバイスしました。ほぼ予定通りに山頂に到着し搬送の準備を開始しました。

スリングにて簡易ハーネスを装着しバケットストレッチャーを担ぐ体制をとられていたので、肩掛けにする様にアドバイスしました。（岡谷） その時スリングの長さ調整に「余り返し（岡谷調整結び）」も説明しました。斜面の下降に伴い立木を使ったロープの確保法やトラバースの時の横転防止の補助の仕方などアドバイスしました。（岡谷）

12:30 635m付近のなだらかな場所で搬送訓練を終了しました。13:20 南原峠駐車場まで下山し、ミーティング後解散しました。

（写真提供は森本・堀内）

感想文

山頂までの登りは日頃から訓練されている方々なので歩くスピードが速く度々待って頂く事になりました。搬送での担ぎ方や確保など普段の彼らの方法と異なる方法をアドバイスしましたが、快くその方法に変更して頂きました。アドバイザーで参加した意味が少しあったと思います。当然、山の条件は全て違うので臨機応変な対応が重要で、今回の方法は単なる一つの参考例として覚えておいて頂きたいと説明しました。岡谷さんがアドバイスする事に直ぐ適応される様子は、普段からロープを使った訓練を十分されているからこそだと感心しました。

しかし彼らは安全靴でしたので雪解けのぬかるみであちこちで滑ったり転んだりと大変そうでした。小股で歩く事にも慣れてないので仕方ないのですが。

それと私が一番勉強になったのはチームワークです。「こちら準備完了です！」「一旦停止！」「確保OK！」などの声かけに伴う動作が安全第一かつ機敏でプロの仕事だと思いました。

20日にヘリコプターを使った訓練に参加した堀内さんからは、彼らは彼らなりのやり方で試行錯誤しているようです。少なくとも「情熱」はとてもかないません。技術的なことよりもその情熱はすばらしいと思いますよ。ベストな、あるいは効率的なことよりも、それぞれの情熱は羨ましいですよ。と報告をうけております。

私もこの様なメンバーで山へ行けたら頼もしいだろうなと思いました。消防の皆様訓練ご苦労様でした。我々はレスキューされない様に安全登山により一層努力しないといけないと感じました。





4. 積雪期レスキュー研修会報告

（指導部長 森本 覚）

日時：2/29（土）～3/1（日）

登山形態：研修会 山域：比婆山

人数：25名（スタッフ含）

今年は記録的な暖冬で、積雪が見込めない状況が予測できましたので、積雪が無くても可能な内容を検討しました。クラスを2つに分けて募集を開始したのですがクラス2の申込者が少なかった為、その方にリーダーとなって頂き大半を合同で研修しました。初日は雨でしたので室内で行いました。2日目は現地に移動し

て行いましたが、前日の影響で時間的に押せ押せとなり初めて参加される方には少し大変だったかもしれません。しかし初めてがなければ2回目も3回目もありませんので懲りずに回数を重ねて上達して頂ければと思っています。（森本）

『積雪期レスキュー研修会を受講して』

（クラス1受講生 個人会員 山根 厚介）

今回の研修会は雪がほとんどなかったのが残念ではありましたがあとでも有意義なものでした。特に勉強になったと感じたのはシート搬送・梱包です。以前教室の机上講習で2年生の方々が実演していたのを見ていたので、ある程度は分かったつもりでいましたが、実際にやってみると最初は全く手が動きませんでした。しかし、2回目、3回目と回数を重ねるにつれてだんだんと手も動くようになりました。頭で分かっていてもダメで体にしみこませないといけないということが改めて分かりました。

また実際に斜面を下ってみることができたのもよかったです。実際の重さの感覚やビレイの要領などはこれをやらなければ実感できなかつたでしょう。

今回やったことは基本的なことばかりで、手順を読むとたいしたことはなさそうなのですが、実際にやれといわれるとなかなかできません。シートベントにしても、自分がやり慣れた方法ならできるのですが、結ぶ方向などが変わると途端に分からなくなることがありました。自然に手が動くようになるまで練習しようと思います。

『山岳レスキュー（積雪期）研修会に参加して』

（クラス1受講生 JAC広島支部 浅尾 幸枝）

2/29～3/1、ひろしま県民の森で行われた、山岳レスキュー（積雪期）研修会の①クラスに参加させていただきました。

1日目は雨天のため（1）雪質観察（2）雪崩予防（3）ビーコン・プローブの使用（4）雪崩発生からの搬出について机上講習を受け、（3）（4）を練習しました。

2日目は晴れ、残雪のあるスキー場リフト上周辺で（3）の実習、木立や手持ちのロープ等を使いツェル

ト設営、8合目辺りからシート梱包・雪上搬送を経験しました。

雪崩の危険性を知るために、雪質を見る事や観測場所の標高や斜面の方角、気温、天気、風速、弱層の位置や判定等、様々な観測項目がある事を教わりました。雪山は装備が多く、準備に時間がかかり、余裕をなくしがちです。雪を観て雪崩の危険性を考える余裕を持つことが大事だと知りました。

この度伺った講習では色々な疑問点が出てきました。例えば雪質の説明を受けましたが、雪が少なく、実物を見ることはできませんでした。どんな雪が重たいのか軽いのかくつつきやすいのかさらさらしているのか。弱層テストは実際にどんな雪の時にどのテストをするのか、時間が限られた時のテストの優先順位、結果はどう判定するのか。地形や植生、傾斜角度や標高、積雪量や雪質が雪崩発生にどう影響するのか。といったようなことです。

雪山は経験豊かな先輩と登れば安心と思い、今まで依存的であった自分を知りました。経験値は雪崩の危険性を読み取るのに頼りになりますが、学習の重要性を感じました。

また雪崩発生の危険に対して自分自身が持つ問題点を解決していく必要性があると思いました。雪崩に関する知識の不足、気象や山域に対する情報収集の不足、体力不足、行動技術の不足、精神力の不足、雪崩発生時の初動能力の欠如、（3）が不慣れ、低体温時の対処等です。

（3）については蘇生法同様、年一回程度で練習を繰り返し行い、機器の取り扱いと雪崩発生時の初動動作に慣れる必要性を感じました。これは自分一人ではなく、山行メンバー全員で行なうことが望ましいと思います。

最後に、事前準備から、当日の悪天候に伴うスケジュール変更まで講師、スタッフの皆様には大変だったことだと思います。ありがとうございました。

『山岳レスキュー（積雪期）研修会に参加して』

（クラス2受講生 JAC広島支部 坂原 忍）

記録的な暖冬で積雪が少ないなか、講師・スタッフ各位の工夫にて有意義な研修会となりました。研修会

を通じて、登山者として身に付けるべき雪質の知識・搜索及び救助に関する基本的なスキルを学ぶことができました。今まで山における事故に関しては気を付けてきたつもりでしたが、誤って覚えていたり、重要なポイントを見落としていたりすることに気づくなど、非常に得るものが多い研修でした。研修で印象に残っているのは、講師の方がおっしゃった「当事者にはなるな」「事故に直面したら、まず身の安全を確保し、全力で救助活動を行え」という言葉です。登山者として身に付いていなければならない知識・スキルがなければ安全登山は担保されません。研修で講師の方や他の参加者から頂いたアドバイスを再確認し、登山のスキルアップを図りたいと思います。

森本指導部長はじめ講師・スタッフの皆様には大変お世話になりました。今後はこの研修で得た知識・スキルをプラスアップし、安全登山の励行に努めたいと思います。

『久し振りの積雪期研修会』

（クラス2受講生 タンネンクラブ 西部 伸也）

連盟の積雪期研修会にはだいぶ昔、大山で開催されたものに2回くらい、最近では8年前の三瓶山での冬山技術研修会に参加して以来である。

個人的には山スキーが好きなので毎年雪山には足繁く通っているが、研修会となると一人あるいはパーティーのメンバーと自由に動き回るのとはちょっと勝手が違う。実技研修であっても、説明を聞いたり、他の人がやっているのを見たりで、「待機」している時間も結構ある。前回の三瓶山の時には1月下旬とはいえ、みぞれのような天候だったので、その「待機」している間にずいぶん寒い思いもした。したがって個人的な山行に出かけるのとは違って研修会にはあまり気が進まず、足が遠のいていたわけである。

けれども2年前から始まった高校登山部顧問安全登山講習会を機に指導部のスタッフとの関わりが増え、登山教室などの指導部の実践にも感心し、これまで自分に欠けていたレスキュー・ロープワークの技術をもっと習得する必要を感じて、このたび参加した次第である。

参加してみて大変ためになる研修会であった。1日

目は雨で室内での研修となつたが、後藤さん・堀内さん・森本さんによる雪質観察・雪崩埋没者の搜索に関する講義は、自分が高体連の先生たちに話す内容とはまた違つて良いものだった。

ビーコンサーチはスキーショップ主催の講習会で経験したことはあったが、負傷者をシートにくるんで搬送するやり方は初めてであった。

2日目は天候も回復したので県民の森スキー場の上部に登り、まずはライジング（負傷者引き上げ）の実技研修を受けたが、これも初めての経験であった。

最後はクラス1受講生共々、前日の搬送技術を山の中で実践したが、室内では行えなかつたロープによる確保（斜面の立ち木を利用しながらメンバーが代わる代わるに続けていく）も体験でき、岡谷さんの言葉を借りれば、まさに「目からうろこ」であった。

スタッフの皆さん、大変お世話になりました。

（写真提供 森本）



1日目講習（県民の森公園センター2F）



2日目ライジング研修



2日目搬送研修



5. 連載『幸せの国ブータン王国滞在記 もろもろ』

—その3—ブータンはどんな国？

（副会長 亀井 且博）

雷龍の国、ドゥック・ユル

ブータンの正式名称は国際的には英語で「Kingdom of Bhutan」、ラテン語では「Druk Yul（ドゥック・ユル）（ドゥック派の国の意）」という。日本語では「ブータン王国」である。国民の間では自国を「ドゥックパ（ドゥックは雷龍、パは人の意）の国」（雷龍の国）と呼んでいる。

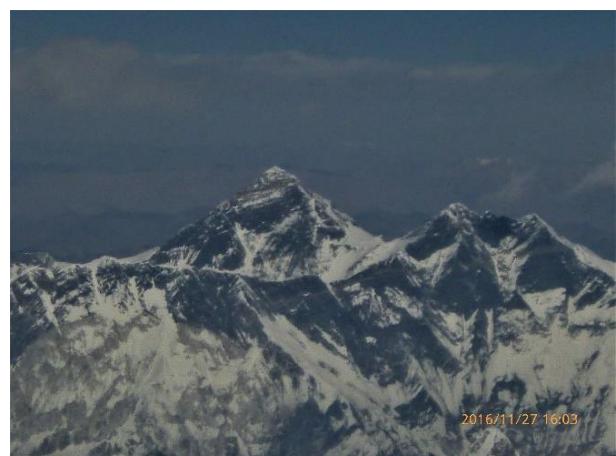
南はインド、北はチベットに囲まれた小さな国で、緯度は北緯 26~28 度近辺で奄美、沖縄とほぼ同じぐらいに位置する。時差は日本とマイナス 3 時間、つまり日本の正午はブータンでは午前 9 時になる。面積は約 38,394 km²で九州とほぼ同じである。東西の距離は約 300 km、南北約 160 kmだから丁度、九州を横にした感じである。人口は 2014 年時点で 76.5 万人と言われ

ているから人口密度は相当に低い。首都はティンプー市でブータン第 1 の都市である。人口は約 10 万人と言われているが、この国には戸籍登録制度はあっても住民登録制度がなく、地方から多くの人が移り住んでいるので、正式には分からぬ。なお、2 番目に大きい都市は、私が暮らしていた南部のインドとの国境の町プンツォリン市で、人口 2.4 万人とも 3.6 万人とも言われている。



雷龍の国らしいブータンの国旗

日本からブータンに来るには、タイのバンコク経由で直接パロ空港に来るのが一般的であるが、その他にはシンガポール経由、インドのデリー、コルカタ、ガヤ、などの各都市経由、またはネパールのカトマンドゥ経由でも来れる。パロ～カトマンドゥ間の空路はブータンヒマラヤを初めネパール東部ヒマラヤのすぐ横を飛び、晴れいるとエベレスト、ローツェ、マカルー、カンチエンジュンガ、チョオユー、シシャパンマの 8,000m 峰 6 座が真近かに見える素晴らしい眺めのルートである。



パロ～カトマンドゥ間の機上から見るエベレストとローツェ

ブータンの地形

九州を横にしたような国と言ったが、北のチベットとの国境はブータンヒマラヤの7,000m級の連山が屏風のように聳え立ち、最高峰は7,564mのガンカ・パンスムで、これは現在、世界最高の未踏峰である。ブータン国内に7,000m峰は20座あると言われている。また南のインドとの国境はインド平原で最低標高は120mである。九州を横にして長崎の標高が7,500m大分の標高が100mと想像してみてもらいたい。壁に板を立て掛けたような、何とも、もの凄い急傾斜の国だというのがイメージできる。国内に平野部はほとんどなく、山また山の山岳国家である。



ブータンの概略図



ブータンヒマラヤの7,000m級の連山

北のヒマラヤから南のインド平原に向かって7本の大きな河が深い谷を穿ちながら流れ込んでいる。そのため東西の移動は谷から山に登りまた谷に下るということ何度も繰り返すことになる。最も東のタシガン県から最も西のハ県に移動する場合は3,000mを超

す峠を5つ越えなければならない。最高標高の峠は富士山よりも高く3,988mである。そのため、たかだか直線距離300kmの移動に日数は3日ほどかかる。



道路の最高標高のチェレ・ラ峠

ブータンの気候

そんなことから気候帯は、北部の万年雪と氷河の極地・ツンドラ気候から南部の熱帯モンスーン気候までいろいろと変化に富んでいる。基本的にはブータンは熱帯モンスーン気候の地域であり雨季と乾季に別れる。6月～9月が雨季、10月～5月が乾季である。雨季の雨はスコールで、日本の梅雨のようにしとしと一日中降ることは無く、乾季にはほとんど雨が降らない。国民のほとんどは暮らしやすい中部や、南部の標高の高い場所に住んでいる。

首都のティンプーは中部に位置し、標高2,300～2,400mの高地であるため日本と同様に四季があり、気候的には長野県に似ている。冬の最低気温は零下5度、夏の最高気温は28℃程度で、冬の寒さもたいしたことなく、夏は涼しいので非常に暮らしやすい。また、冬の時期が乾季で雨が降らないため雪にもならず、高い山を除いて雪はほとんど降らない。私が滞在していた2年間でティンプー市内に雪が積もったのは1回だけ、それも薄っすらであった。雪に関してはユニークな制度があり、初雪が降った日は官公庁、学校は突如休日になる。朝、その冬初めての積雪があれば内務省が判断して休日にするのだ。そのため学生たちは初雪が降るのを楽しみにしている。また、非常に乾燥していて、湿度は50%以下で冬でも陽射しが強いため洗

灌物はすぐに乾く。冬に洗濯物を屋外の陽の当たる場所に乾すと、直ぐにモクモクと水蒸氣があがり始め、1~2時間で乾燥終了である。

ブータンの動植物

標高と気候が幅広いため、ブータンの動植物は非常に多様性に富んでいる。生物的には大きく3つの地帯に分けられる。森林が全くない高山地帯、針葉樹林や広葉樹林の拡がる温帶、熱帶や亜熱帶の植物が自生する亜熱帶である。温帶の山には針葉樹林、広葉樹林、混合樹林でモミやヒマラヤマツの森、高地や低地の硬木の森が広がっている。花はさくら、モモ、ナシ、モクレン、ジンチョウゲ、サクラソウ、リンドウ、コスマスなど日本でも良く見られる花が春から秋にかけて咲き乱れ、色々な色の珍しいラン、ダイオウ、ブルーポピーといった珍しい花も見られる。また大麻草、冬虫花草も分布している。特に大麻草は道のほとりに雑草として生えており、何処でも見ることが出来る。マリファナを吸い放題であるが、ブータン人は見向きもしない。また約300種を超える薬用植物や、約46種の色とりどりのヒマラヤシャクナゲが生えている。冬虫夏草は漢方薬として有名であるが、チベットとの国境地帯で取れるため、チベットから越境して盗掘されるのが問題となっている。日本では1kg300万円とも聞く、非常に高価なものである。冬の季節以外は山や里は色とりどりの花や濃い緑で楽しませてくれる。



ブータンの国花、ブルーポピー



シャクナゲ



冬虫夏草

また、動物も多様性に富み、ターキン、ユキヒヨウ、ベンガルタイガー、レッサーパンダ、ゴールデンラングール（金色のモンキー）、シルバーラングール（銀色のモンキー）、ツキノワグマ、野ブタ、ホエジカ、ブルーシープ、ジャコウジカ、サイ、ゾウ、水牛、沼シカ、カワウソ、ワニ、キングコブラ等寒帯の動物から熱帯の動物まで何でもいる世界で、猛獣も多く分布している。一度だけ政府から許可を貰って、トラウト（ニジマスの仲間）釣りに川に出かけた事がある。ルアーを手繕っていたら、いきなり水面にカワウソが現れて疑似餌のスプーンを追いかけようとしたので驚いて違う場所に移動したことがある。それぐらい、日本では既に絶滅したカワウソが普通に生息している。また、トレッキング中に泊まっていたヤク放牧場のキャンプサイトで、夜にヤクと番犬が騒ぎまくり何事かと思ったが、翌朝にトラの足跡を見つけたこともある。2018年3月20日にはティンプーの郊外の集落にトラ

がやって来て大騒ぎとなり、なんとか捕獲して檻に入れたというニュースも流れていた。私が住んでいたパンツオリン市は標高約250mのインド平原の北端で亜熱帯であり、草むらや山にはキングコブラ等の毒蛇があるので気を付けろと言われる。日本の山のように迂闊にどこでも単独山行をしていると、大変な目に遭う危険性がある。

さらに鳥類は16種の世界的な絶滅危惧種の生息地（アオサギ、フィッシュイーグル、オオカワセミ、オグロヅル、孔雀等）で、ポブジカはオグロ鶴の越冬地として有名である。オグロ鶴はヒマラヤ8,000mをも越えて南に越冬のために飛来する、といわれるロマンのある鶴である。ポブジカでは11月終わりから3月初め頃の間、湿地帯や畑で餌をついばむ多くの鶴の家族連れを見ることが出来る。また日本の学術調査隊が再発見して有名になった、絶滅したと言われていた国蝶のブータンシボリアゲハは幻の蝶とも言われている。



ブータンの国獣、ターキン



オグロ鶴



幻の蝶、国蝶のブータンシボリアゲハ

次回（その4）はブータンの歴史、政治、経済について

6. 2020年度行事予定

各会ならびに個人会員の皆様の来年度の活動計画を立てる上での参考に、来年度の当連盟関連の主な行事予定をお知らせします。

なお、詳細な行事予定は、例年のように村井副会長が作成し、近日中に各会員に連絡される予定です。

（西部）

月	県民ハイキング () 内は担当団体	岳連例会山行
4		26(日) 船通山
5		16(土) 那岐山
6	14(日) 恐羅漢山 (広島山稜会)	6(日) 大万木山
7	12(日) 三段峡 (タンネンクラブ)	4(土)～5(日) 蒜山三座
8	23(日) 龍王山 (東広島山の会)	1(土)～2(日) 大山
9	6(日) 小室井山 (広島県庁山の会)	4(金)～6(日) 大満寺山
10	11(日) 権現山 (可部山岳会)	3(土) 安蔵寺山

月	県民ハイキング	岳連例会山行
11	8(日) 武田山 (広島やまびこ会)	3(火祝) 大神ヶ岳
12	6(日) 前嶺山・駒ヶ林 (宮島太郎の会)	9(水) 鶯ヶ頭山
1	17(日) 安芸小富士～下高 山 (安藤縦走会)	16(土)～17(日) 三瓶山
2	23(火祝) (福山山岳会)	11(木祝) 青野山
3	21(日) 宗箇山 (J A C 広島支部)	27(土) 泉山

その他の主な当連盟関連行事

(S C = スポーツクライミング、太字は当連盟主催)

4/3(金)～5(日) FISE HIROSHIMA 2020 (広島市中央公園)

4/25(土)～26(日) スカイラン事前準備

4/29(水祝) 国体 S C 競技県選手選考会 (C E R O)

5/9(土) 定時総会・懇親会 (東方 2001)

5/23(土)～24(日) スカイラン事前準備

5/23(土)～24(日) 中国地区自然保護研修会 (鳥取県鏡ヶ成
大山)

5/30(土)～31(日) 登山フェスティバル・比婆山スカイラン

6/6(土) スカイラン後片付け

6/6(土)～7(日) 県高校総体登山競技 (大佐山)

6/7(日) ひろしま「山の日」県民の集い (府中市ほか)

6/26(金)～28(日) 国体 S C 中国ブロック大会 (鳥取県倉吉
市・琴浦町)

7/4(土)～5(日) 広島県高体連登山部 50 周年記念祝賀会 (もみ
のき荘・小室井山)

7/18(土) S C 中国地区ユース選手権 (島根県松江市)

8/10(月祝) 夏山リーダー養成講習会① (広島市東区スポセン)

8/20(木)～24(月) インターハイ登山大会 (群馬県武尊山・尾
瀬アヤメ平)

8/22(土)～23(日) 夏山リーダー養成講習会②③ (恐羅漢山)

8/25(火)～30(日) 連盟写真展

9/5(土)～6(日) 高体連中国大会県予選 (吉和冠山)

9/26(土) 夏山リーダー養成講習会④ (広島市東区スポセン)

10/4(日)～6(火) 国体 S C 競技 (鹿児島県南さつま市)

10/10(土) 山岳・S C セミナー (広島市西区民文化センター)

10/24(土)～25(日) 無雪期 (登攀) レスキューレン修会

10/28(水) 全員協議会 (広島市西区民文化センター)

10/30(金)～11/1(日) 中国高校登山大会 (山口県秋吉台)

11/14(土)～15(日) JMSCA 登攀研修会 (広島県福山市)

11 月下旬 県(高体連) 登山部顧問安全登山講習会(研修会)

1/10(日) 新年互礼登山 (宮島)

1月 (日にち未定) 岳連 80 周年記念祝賀会・国体インターハイ
報告会

2/6(土)～7(日) 県高体連雪山大会 (もみのき森林公园)

2/27(土)～28(日) 冬山技術研修会 (大山)

3/6(土)～7(日) 中国地区山岳連盟(協会)連絡協議会 (岡山県)

7. 岳連短信

1. 寄贈御礼

広島やまびこ会『やまびこ』No. 766 (3月号)

三原山の会『筆影』No. 480 (3月号)

福山山岳会『会報』R2.3月号

広島山岳会『山嶺』第 855 号 (R2.2 月)

2. 3～4月の行事案内

(集合時間・場所等の詳細は当連盟ホームページの
「岳連カレンダー」のページを開き各行事をクリック
すると確認できます。不明のものについては事務局に
お尋ねください。)

3/15 県民ハイキング (黒滝山～白滝山)

3/29 岳連例会山行 (経小屋山・城山・奥滝山・中津岡
山・ロックガーデン)

4/25～26 スカイランコース整備・看板掛け

4/29(水祝) 国体 S C 競技県選手選考会 (C E R O)

編集部より

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行して
います。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など
気軽に寄せください。寄稿の場合は所属、役職を
記入下さい。編集の都合で一部手直しすることが
あります。ご了承ください。

○会員団体で会報発行されたら岳連事務局まで恵送
下さい。隨時紹介します。

○この会報はメール配信しています。配信ご希望の方
は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい。